

一年生イネ科雑草に 適用拡大!

— 発生前から生育期まで使えます —

緑地管理用除草剤

ササ・ススキ・チガヤの防除に!

フレノック® 粒剤10

種類名：テトラピオン粒剤

農林水産省登録 第10783号

一年生イネ科雑草に
適用
拡大!

ササ

ススキ

エノコログサ(一年生イネ科)

ササ地

ササにフレノック粒剤10を散布すると、吸収されたフレノック成分は地下茎の中で残り、長期間にわたって新芽の伸びを抑えます。

散布方法・使用量

全面散布 = 30~50kg/ha

- ササの種類により感受性が異なりますので、薬量を調節してください。ネザサ、アズマネザサは感受性が特に強く、10kg/ha散布でも効果を示します。ミヤコネザサ、チマキネザサ、クマイザサ、スズタケ、チシマザサなどには、上記の標準散布量内で大型ザサになるほど薬量を増してください。
- 散布薬量を少なくすると、効果の発現するまでの日数が長くなる傾向があります。逆に、増量すると効果が早まり、抑制の程度が強まります。さらに増量すると地下茎を枯らし、抑制ではなく枯死の状態になります。
- ササ刈払後散布すれば、そのまま散布する場合の約半量で同等以上の効果を得ることができます。地ごしらえ後の再生防止にはすばらしい効果があります。たとえばすじ刈地ごしらえ地では、刈巾だけに散布することで、さらに薬量が減量でき、しかも場所によっては残生ザサによる寒風害防止を期待できます。
- 地ごしらえ地に使用する場合に5割増程度の薬量にしてください。

フレノック粒剤10のササに対する効果の現われ方

	処理前	処理翌年伸長期	2年後伸長期	3年後伸長期	4年後伸長期
チシマザサ (ネマガリダケ)	2~2.5m 密生し稈は太く、年々新筍の発生と稈の分枝で新葉展開。	徐々に葉の黄変落葉が促進される。筍と分枝の発生は抑制。	落葉がさらにすすみ、光がちらちらと差し込むようになる。	落葉がすすみ、稈の先端や枝先から枯れ込みが見られる。	枯れ込みがすすみ、光の入る量が増すと植生交代がすすむ。
ネザサ・アズマネザサ (シノダケ)	2.5, 3.0m 根は浅く、年々新筍の発生と稈の分枝による新葉展開。	葉の寿命が短く、落葉が早まる。新筍は先端が抑制され腐る。	完全に落葉し、稈や枝の先端から枯れ込む。	稈の枯れ込みがすすみ、地表に光が入り植生交代がすすむ。	稈の枯れ込みがさらにすすみ、地下茎も腐変部が増し再生は抑えられる。
ミヤコネザサ	0.6~0.8m 葉と稈は1~2年で更新され稈が分枝することはほとんどない。	新筍の発生抑制。葉は枯れ込み、稈は頂部から次第に枯れ込む。	稈の枯れ込みがすすみ倒伏する。抑制は続き新稈の再生はない。	稈が枯れて倒れ、地下茎の枯れ込みがすすみ、地面に光が入り交代が始る。	植生交代がさらにすすむ。ササの再生が始るのはさらに数年あと。
チマキネザサ (クマイダケ)	1.5~2.0m 稈は密生し、年々新筍と稈の側芽から新葉が展開する。	葉の黄褐変がゆっくりすすみ、側芽の伸長は抑制する。	抑制は続き、落葉はすすむ。枝先から枯れ込みが見られる。	葉はほぼなくなり、枝の枯れ込みがさらにすすむ。	旧稈の枯れ込みがすすむ一方一部に再生芽がみられることがある。

※スズタケは稈がかたく、テトラピオンによる反応はチシマザサに準じてお考えください。

フレノックは根から吸収され、その後の新筍や側芽の萌芽、伸長、新葉(茎の先端から出てくる細く巻いた葉)の展開をほぼ完全に抑えます。しかし、それ以前に展開した葉は正常で、外観上は変化を認めることができません。3~6ヶ月程すると、それらの葉も次第に黄化が目立つようになり、落葉が始ります。まず新しい芽や葉の伸長を抑制しておいて、古い茎葉の枯れてゆくのを待つわけですから、枯死までには1~2年程度、大型ザサではそれ以上の期間を要します。

ススキ地

散布方法・使用量

全面散布 = 30~50kg/ha
スポット散布 = 10~15g/直径30cm株

- ススキ枯殺を目的とする場合は上限薬量を、生育抑制を目的とする場合は少なめに散布してください。
- 秋冬期に処理した方が薬量が少なく済み、効果が確実に現れます。
- ススキの発生が非常に多く全面ススキに覆われたような所では全面にむらなく散布してください。
- ススキの株が少ない所では、スポット散布してください。処理量は株の大小によって適当に増減して、株全体に均一に散布してください。

スポット散布薬量

株直径	20cm以下	20~50cm	50~80cm	80cm以上
散布量	5~7.5g	10~15g	20~30g	40~60g

● 処理薬量は100kg/haを越えないようにし、また造林木の周囲半径60cm以内にススキ株がいくつあっても10g以上は散布しないでください。

フレノック粒剤10の処理時期とススキに対する効果の現われ方

	休眠期	出芽期	生育期	出穂期	休眠期	出芽期	生育期	出穂期
	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋
無処理								●前年より株径拡大
秋冬期処理 (6~12月頃)					枯れススキ			●枯死~強度抑制
出芽初期処理 (草丈30cm~40cm程度頃)								●枯死~抑制
茎葉伸長期処理 (草丈60cm頃)								●枯死~弱い抑制
刈払後処理								効きは始めるまで若干伸びるがその後伸長を抑える

図は代表的な株を示しています。薬量、株の大小、地形などにより効果は異なります。

● フレノック処理
✕ 効果発現時期

緑地管理用除草剤

容量×入数：2.5kg×6

フレノック® 粒剤10

種類名：テトラピオン粒剤

農林水産省登録 第10783号

有効成分	テトラピオン【2,2,3,3-テトラフルオロプロピオン酸ナトリウム】…………… 10.0% 鉱物質等…………… 90.0%
性状	類白色細粒

一年生イネ科の発生前から生育期に使用できます。
ササ・ススキは秋冬期の使用が効果的です。

適用雑草と使用方法

*印は、本剤及びその有効成分を含む農業の総使用回数の制限を示す。

下記適用以外には使用しないで下さい。

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量	総使用回数*		使用方法
					本剤	テトラピオン剤	
開墾後に栽培する樹木類	開墾地	ススキ	秋冬期～出芽初期	ススキ1株(平均株径30cm基準) 当り15g(但し、10kg/10aまで)	1回	1回	スポット処理散布
		ササ		3～5kg/10a			全面均一散布
すぎ(地ごしらえ、下刈り) ひのき(地ごしらえ、下刈り)	-	ススキ	秋冬期(但し土壌凍結前)	ススキ1株(平均株径30cm基準) 当り15g(但し、10kg/10aまで)	1回	2回以内	スポット処理散布
とどまつ(下刈り)		ササ		2～4kg/10a			全面均一散布
からまつ(下刈り)		ススキ		3～4kg/10a			
ぶな(地ごしらえ、下刈り)		ササ		2～3kg/10a			
		チガヤ		10～20kg/10a			
樹木等	公園、庭園、堤とう、駐車場、道路、運動場、宅地、のり面、鉄道等	ススキ	秋冬期～出芽初期	5～10kg/10a	2回以内	2回以内	植栽地を除く樹木等の周辺地に全面均一散布
		ササ	雑草発生前～生育期	2～10kg/10a			
		一年生イネ科雑草					

効果・薬害等の注意

- スポット処理の場合ススキの株数が多い場合(3,000株/ha以上)でも、処理量は100kg/haを越えないようにし、また造林木の周囲半径60cm以内にススキ株がいくつあっても、10g以上は散布しないこと。
- 開こん地、杉、ひのきに使用する場合、処理適期は秋冬期から雑草の出芽初期であり、伸長期になると効果が劣るが、翌年の出芽は抑制するので、効果が劣るからといって、くり返しや追加の散布はしないこと。
- 一年生イネ科雑草に使用する場合、処理適期は雑草の発生前から雑草生育期(草丈20cm以下)であり、効果完成までに日数を要するので、誤って再散布しないこと。また、広葉雑草が優先する場所では広葉雑草に有効な剤と組み合わせて使用すること。
- 本剤は水によくとけ、降雨時、積雪時、または融雪時には流亡による効果低減のおそれがあるので、使用をさけること。
- 本剤の飛散あるいは流出によって有用植物に薬害が生じることのないよう十分に注意して散布すること。
- 場合により、造林木の下葉に黄褐変が認められることがあっても、上長成長には影響が見られない。
- 林地の地ごしらえ、または開墾地に使用した場合、散布後3ヶ月以内は樹木の植付け、は種などをさけること。
- 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- とどまつ、からまつ、ぶなに使用する場合、春夏期には薬害を生じやすいので、造林木の根の吸収が低下する落葉期から土壌が凍結または降雪期までに散布すること。砂質土で薬剤の流亡が生じやすい地域では、所定量の範囲内で多目の薬量で使用すること。
- からまつに使用する場合、透水性不良の土壌では少なめ(3kg)に使用すること。
- 散布器具、容器の洗浄水は河川等に流さず、容器、空袋等は環境に影響を与えないよう適切に処理すること。
- 水源池等に本剤が飛散・流入しないよう十分に注意すること。

安全使用上の注意

- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- 散布の際は農業用マスク、手袋、長ズボン、長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをすること。
- 公園、堤とう等で使用する場合は、散布中及び散布後(少なくとも散布当日)に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管すること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- この登録に係る使用方法では該当がない。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

- 通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項

- 直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密栓して保管すること。

● ラベルをよく読む。● ラベルの記載内容以外には使用しない。● 小児の手の届く所には置かない。● 空容器は圃場などに放置せず、適切に処理する。● 防除日記を記録する。

※本印刷物は2018年5月21日現在の資料、情報、データ等に基づいて作成していますが、記載データ及び評価はあくまでも測定値の代表例であり、全ての事例に当てはまるものではありません。フレノックは三井化学アグロ(株)の登録商標

販売元

三井化学 株式会社 エムシー緑化
グループ

取扱い